

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
総務部	<p>1. 地域の学校として地域との交流や連携を深め、高校生が地域の中心となって活躍します。また、地域に貢献し地域文化の中心を担います。</p> <p>(1) 地域交流行事や地域のボランティア活動等に積極的に参加します。</p> <p>(2) S B P (地域ビジネス創出プロジェクト) 活動を通して、地域を愛し・地域に根ざした活動に取り組む地域のリーダーの育成を図ります。</p> <p>(3) 防災教育を充実させ、地域に誇りを持ち、主体的に防災活動を行うことができる生徒を育てます。</p> <p>(4) コミュニティ・スクールに関する実践や体制づくりについて研究を深め、高校生が地域の中心となって活躍する学校づくりを目指します。</p> <p>2. 日々の授業や教育活動を通して、人を尊重する心と態度を育むとともに、差別や偏見のない社会の実現に向けて主体的に行動する力を養います。</p> <p>(1) 授業やあらゆる教育活動の中で、生徒一人ひとりとしっかり向き合います。また、人権 LHR や人権講演会を通して、自分や自分以外の人々を尊重することのできる生徒を育てます。</p> <p>(2) LHR や講演会後の感想やアンケートをもとに、人権意識が向上したという生徒が80%以上になることを目指します。</p> <p>3. 人権教育の充実のために、教職員研修を計画的に実施します。</p> <p>(1) 教職員を対象にした人権研修会を年1回以上実施します。</p> <p>(2) 研修会後の感想やアンケートのをもとに、人権意識が向上したと感じた人や人権学習の参考になったという人が、受講者の80%以上になることを目指します。</p>	<p>1</p> <p>(1) 小中高合同清掃を行いました。地域の行事に積極的に参加しました。</p> <p>(2) S B Pは沖縄、島根との交流を始め、全国のいくつかの地域の高校生と交流を持ちました。たいみー焼き、セレクトギフトの取組で好評を得ました。</p> <p>(3) 計画的な防災教育の積み重ねにより携帯用防災グッズの開発に貢献しました。東北ボランティアは4年目を迎え、初めて宮城県での活動を行いました。これらの3～4年間の成果が認められ、ぼうさい甲子園で「津波ぼうさい賞」を受賞しました。</p> <p>(4) コミュニティ・スクール推進いいかいを立ち上げ、あり方の研究を行いました。</p> <p>2. 5月末LINEを使ったいじめ事案の発生。学級全体の課題として、担任はじめ各教員から指導。人権講演会の実施、スクールカウンセラー来校回数追加、保護者会、家庭訪問の実施。6月1日(月)校長訓話。6月3日(水)ネットの危険性について講演会の実施。6月4日(木)保護者会。6月8日(月)いじめに関する講演会。6月23日～30日家庭訪問。6月24日(水)、7月8日(水)人権LHR。7月11日(土)、地域住民対象にネットの危険性について講演会の実施。</p> <p>人権LHR…1年生:6月24日(水)、7月8日(水)、2月22日(月)、2月24日(水)、2年生:6月24日(水)、2月17日(水)、3年生:6月24日(水)、11月18日(水)。人権講演会…1年生:6月3日(水)「ネットの危険性」、全校生徒:6月8日(月)「いじめに関する講演」、1月12日(火)「多文化共生に関する講演会」。アンケートでは9割の生徒が「よかった」と回答。</p> <p>3. 8月19日(水)、本校スクールカウンセラーを講師に、本校舎全教員を対象に、カウンセリングからみえてきた生徒の実態をテーマに教職員研修を実施。2月4</p>	<p>1</p> <p>S B P活動においては、生徒が自ら考え実行する体験を多くすることにより、思考力や判断力を育成することができています。また、交流活動や発表会などでプレゼンテーションをする機会を持ち、表現力やコミュニケーション力を高められています。</p> <p>東北ボランティア等の活動も定着し、防災意識の高揚に役立っています。さらに日常的に防災を意識する取組を重ねていく必要があります。</p> <p>コミュニティ・スクールの研究の一環で、「ふるさと劇団」を結成し上演しました。大変好評を得ましたが、今後も継続し定着させていく必要があります。</p> <p>2. 人権教育推進計画にそって人権 LHR、人権講演会を行い、生徒の人権意識の向上が見られた。いじめ事案に関しても、人を尊重する心と態度を育む機会となった。これらを通じて得たものを今後の学習、生活に反映させ、実際に行動できるように、継続的な指導を行っていきたいと考える。これらのことを踏まえ、人権教育推進計画を見直し、さらに改善していきたいと考える。</p> <p>3. 生徒に関する教員間の情報に加え、スクールカウンセラーによる情報が加わることで、とらえる生徒像が広がった。また、性的マイノリティをはじめ、生徒の求めるニーズを把握し、生徒一人ひとりに寄り添った教育を展開できるよう、今後も研修等で教職員の知識や技術を高めていく必要がある。</p>

	<p>4. 生徒の情報共有を充実させるために、教職員間の対話を大切にします。</p> <p>(1) 教職員の対話や情報共有を常に心がけます。また、会議や委員会において、生徒の情報交換の時間を確保します。</p> <p>(2) 会議や委員会等における、生徒に関する情報共有を月に1回以上行います。教職員の仕事に対する満足度、80%以上を目指します。</p>	<p>日(木)本校教員対象にLGBT研修を実施。</p> <p>4. 月1回以上開かれる会議または委員会において情報を共有。さらに日常的に情報を共有。</p>	<p>4. 本校舎の強みとして「職員同士のコミュニケーションが取りやすく、課題に即時に対応できる。」と捉えている教職員が多く、今後もその強みを活かしていきたい。</p>																												
<p>教務部</p>	<p>1. 自らの力で将来を切り開いていける学力を育成します。</p> <p>(1) 基礎学力の定着を図るために、基礎学力向上ウィークを実施します。中間考査後に「天声人語の書き写し」、期末考査後に「One Week Trial (国数英)」を使った自学自習、長期休業明けに「基礎学力診断テスト(国数英)」を実施します。</p> <p>(2) 基礎学力診断テストの結果において、成績上昇率50%を目指します。</p> <p>2. 生徒が力をつけられるよう、「わかる授業・できる授業」を目指します。</p> <p>(1) 授業公開などの機会を設け、学校内の教員はもちろん学校関係者や保護者にも授業を参観していただき、アンケートを実施します。</p> <p>(2) 生徒に「授業に関するアンケート」を実施し、授業改善の資料とします。</p> <p>3. 豊かな心を育てます。</p> <p>(1) 各学期に朝読ウィークを設定し、朝読書の習慣を身につけさせます。</p> <p>また、落ち着いた雰囲気を作り、授業に臨めるようにします。</p> <p>読書後に、生徒に簡単な感想を書かせるようにします。</p>	<p>1.</p> <p>(1) 定期考査後に年5回実施。</p> <p>(2) 基礎学力診断の結果(上昇率)</p> <table border="1" data-bbox="927 580 1473 812"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生 (4月→1月)</td> <td>27.3%</td> <td>38.9%</td> </tr> <tr> <td>2年生 (4月→1月)</td> <td>33.3%</td> <td>40.9%</td> </tr> <tr> <td>3年生 (4月～9月)</td> <td>40.9%</td> <td>19.2%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="927 844 1473 979"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年次</th> <th>2年次</th> <th>3年次</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10期生</td> <td>22%</td> <td>40.9%</td> <td>40.9%</td> </tr> <tr> <td>11期生</td> <td>38.9%</td> <td>33.3%</td> <td>---</td> </tr> <tr> <td>12期生</td> <td>27.3%</td> <td>---</td> <td>---</td> </tr> </tbody> </table> <p>2.</p> <p>(1) 11月に授業公開を実施しました。</p> <p>(2) 授業に関するアンケート：年度末に実施しました。</p> <p>3</p> <p>(1) 各学期1回6月、11月、2月に1限目授業前に行いました。なかなか集中できていない生徒も一部いますが、中には集中してチャイムがなってもしばらくは読んでいる生徒もいました。</p> <p>授業の始まりと終わりのあいさつを徹底をはかり、気持ちの切り替えを促したり、興味ある授業の展開を心がけました。</p>		H27	H26	1年生 (4月→1月)	27.3%	38.9%	2年生 (4月→1月)	33.3%	40.9%	3年生 (4月～9月)	40.9%	19.2%		1年次	2年次	3年次	10期生	22%	40.9%	40.9%	11期生	38.9%	33.3%	---	12期生	27.3%	---	---	<p>1 基礎学力向上の取組は、中間テスト後に天声人語の書き写し、期末テスト後にOne Week Trialというスタイルが定着でき年5回実施できました。</p> <p>天声人語の書き写しでは、「①正確に②丁寧に③素早く④間違わず」を意識させて鉛筆だけでなくボールペンを使って写させました。3年生での進路実現のための作文・小論文や関係書類での効果が期待されます。</p> <p>基礎学力診断テストは、一昨年度より1年生も入学前にOne Week Trialを配布し4月の第1回より実施しました。今年の1年生は4月→1月の上昇率では27.3%でした。目標には、まだまだ届いていませんが、今後更に頑張っていきたいと思えます。</p> <p>今年度の授業公開では、8名(保護者2名、教員5名、町議会議員1名)に参加していただきました。</p> <p>3</p> <p>本を忘れた生徒のために何冊かの本も用意して全員が取り組めるようにしました。</p> <p>騒がしい授業もありましたが、授業見学や個別の指導もあり徐々に改善して、おおむね落ち着いたきのある授業ができています。</p>
	H27	H26																													
1年生 (4月→1月)	27.3%	38.9%																													
2年生 (4月→1月)	33.3%	40.9%																													
3年生 (4月～9月)	40.9%	19.2%																													
	1年次	2年次	3年次																												
10期生	22%	40.9%	40.9%																												
11期生	38.9%	33.3%	---																												
12期生	27.3%	---	---																												

		感想を書くことについては、時間内に設定することができませんでした。	読んでいる本の途中で感想を書くことに無理があったり、読書に集中していることを考えて今後見直していきます。
生徒指導部	<p>1. 地域に対して南伊勢高校の良さを発信します。</p> <p>(1) 校内外を問わず自主的に礼儀正しい挨拶ができるよう、毎朝の登校指導において生徒全員に声かけを行います。積極的な挨拶をする習慣が身につく、50%以上の教職員が生徒の挨拶が向上したと実感できることを目指します。また、同時に身だしなみを整える意識向上も図ります。</p> <p>(2) 全教職員による校内巡視、下校指導を各学期に行い、全教職員が協力して指導できる体制を強化していきます。</p> <p>2. 基本的な生活習慣の定着を図ります。</p> <p>(1) 全教職員が協力し、日々の掃除を通し正しい掃除方法や習慣を身につけさせ校内美化に対する意識向上を図ります。年3回の大掃除を実施し、校内美化を更に進めていきます。掃除をサボる生徒を「0」にし、70%以上の教職員が校内美化が向上したと実感できることを目指します。</p> <p>(2) 遅刻・入室許可の集計をもとに、繰り返す生徒に対し担任と協力して指導を行います。遅刻・授業途中退室の減少を50%以上にします。</p>	<p>1.</p> <p>(1) 登校指導は生徒指導部だけでなく学校長をはじめ他の教員の協力を得て毎朝実施しました。欠席や遅刻、登校の様子から生徒一人一人の生活面の変化に気づく上でも役立っています。また、服装指導等も適宜行い意識付けを図りました。</p> <p>挨拶においては積極的にできる生徒が増えており、来校者に対しても元気な挨拶ができています。しかし、こちらの挨拶に応える程度のまだ不十分な生徒が多いのも現状です。</p> <p>(2) 下校指導は実施しなかったが、生徒指導部による地域清掃や見回りを各学期に行いました。また、全教職員の協力を得て校内巡視も随時実施しました。</p> <p>2.</p> <p>(1) 全教職員の指導により日々の掃除やゴミの分別が徹底され、校内は大変きれいな状況です。生徒も真面目に取り組む姿勢が見られます。また、各学期ごとに大掃除も実施しました。</p> <p>(2) 学年を問わず限られた生徒に些細な退室を繰り返す傾向が見られました。担任との連絡を密にし指導しました。ただ、全体的な退室者数は減少傾向です。</p>	<p>1.</p> <p>毎朝の登校指導を来年度以降も継続して実施していくとともに、挨拶、身だしなみを始めとした生活習慣上のマナー意識の向上を目指します。</p> <p>2.</p> <p>(1) 今後も更なる校内美化に関する意識向上を目指します。</p> <p>(2) 一部の生徒に教室移動時の遅刻や授業中のトイレを理由とした些細な退室に対する意識の低下が見られるので、授業規律の確立のためにも生徒指導部としての指導ルールを再検討し、全教職員に向けてその徹底を図ります。</p>
進路指導部	<p>1. 生徒の就職希望実現のため環境整備をすすめます。</p> <p>(1) 南勢地区はもちろんのこと、愛知県や三重県北中部など、いままで訪問していなかった地域の求人開拓をすすめます。</p> <p>(2) 生徒との面談を充実させ、生徒の希望を把握します。</p> <p>(3) 就職内定率などで評価します。</p> <p>2. 生徒の希望校合格のため幅広い学力を身につけさせます。</p> <p>(1) 放課後の補習を充実させます。</p>	<p>1. (1) 南勢地区に加えて中勢、伊賀、紀州地区、県外では愛知県を訪問しました。</p> <p>(2) 進路指導部で数回にわたって面談を実施し生徒への意識付けと志望把握に努めました。</p> <p>(3) 公務員希望者を除いてすべて第一次の就職試験で合格しました。特に、ホンダ、トヨタを始め第三銀行に内定者をだすことができました。</p> <p>2. (1) 英数国三教科について毎週火木金の放課後に2時間の補習を実施しています。参加生徒は目的意</p>	<p>1. (1) 求人開拓は熱心に取り組んでいるが、取り組みの結果、せっかく求人票をいただいたが、生徒数が少ないために、生徒の応募がなかったという事態が発生します。それを防ぐためには、生徒の希望を的確に把握することが重要です。</p> <p>(2) 自分が何をしたいのかを認識できておらず、3年生になっても進路先がわからない生徒も多いので、早い段階からの面談が必要と思われます。</p> <p>2. (1) (2) 基礎学力の向上については、なかなか</p>

	<p>(2) 一般常識問題集を生徒にやらせて、定期考査に出題します。</p> <p>(3) 進学実績や就職内定率などで評価します。</p> <p>3. 生徒に自分の適性や興味などを客観的に把握させ、自らの進路選択にミスがないようにします。</p> <p>(1) 進路ガイダンスによって自らの適性や希望を考えさせます。</p> <p>(2) 担任と進路指導部の連絡を密にし、生徒の的確な状況把握につとめます。</p> <p>(3) 卒業後の生徒状況の把握に努め離職率などで評価します。</p>	<p>識のある生徒がほとんどで生徒個々に応じた指導ができています。</p> <p>(2) 一般常識問題を定期考査のテスト範囲に組み込んだことにより、一般常識問題を熱心に取り組んでいます。</p> <p>3. (1) 進路ガイダンス (主なもの)</p> <p>5月 全学年&保護者対象 進路説明会</p> <p>7月 全学年対象 学校別説明会</p> <p>9月 3学年対象 面接指導</p> <p>12月 全学年対象 職業体験</p> <p>3月 全学年対象 職業体験</p> <p>生徒の意識向上の視点からは成果がありました。</p> <p>(2) 毎週、3学年会を実施し、連絡を密にして、諸活動をすすめました。</p> <p>(3) 就職先企業のほとんどを訪問し、生徒の状況把握に努めました。</p>	<p>か難しい問題で、教務部などと連携しながら展開していくことが重要です。</p> <p>3. (1) (2) 南伊勢町は、町外へ出にくく、外部に接することが少ない環境です。そのために、実際の仕事や社会のことがあまり認識できていません。そのためにも、企業や学校の見学、外部講師による進路ガイダンスなどの施策が必要です。</p>
<p>保健部</p>	<p>1</p> <p>(1) 個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、生徒が自己肯定感を持って日々の生活に臨めるように支援します。</p> <p>(2) 担任・保護者・スクールカウンセラー・専門機関等、関係者と緊密に連携し教育相談を必要とする人、特別支援を必要とする生徒(またその保護者)が相談しやすい環境や支援体制を整えます。</p> <p>(3) 心身の自己管理ができ、授業を大切に健康で安全な学校生活を送れているかを検証します。</p> <p>・発達障がい疑われる生徒の個別支援計画を作成し、個々の指導上の課題を整理し対応することができたかによって確認します。</p> <p>2</p> <p>(1) 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀を身に付け、生活環境を整えられる姿勢を育成します。</p> <p>(2) 日々の清掃活動・定期的な大掃除・整理整頓デー、学</p>	<p>1</p> <p>(1) 保健委員による、編集発行ができました。</p> <p>(2) 自発的に相談室を訪れる生徒が増えていました。</p> <p>(3) 健康管理のチェック表を配布し記入させることで自己管理意識を高めることができました。</p> <p>2</p> <p>(1) 保健便りを利用し、身の回りの整理整頓、清掃の意識啓発を進めています</p>	<p>1</p> <p>(1) 生徒数が少ないため、一人一人の負担が多いので負担を減らす方法を考えたいと思います。</p> <p>(2) 相談が必要であるが、相談に来られない生徒の掘り起こしが必要である。</p> <p>(3) 継続して意識の向上を目指します。</p> <p>2</p> <p>(1) 身の回りだけでなく公共の場においても意識を持つようになってほしいと思います。</p>

	<p>校環境デーのクリーンアップ大作戦(6月実施予定)による校内美化の徹底を行います。</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの整理・整頓が行え、物を大切に扱う姿勢を身に付けることができたかを検証します。 ・校舎内外(通学路含む)の美化を保つことができたかによって、検証します。 <p>3</p> <p>(1) 自他の命のかけがえのなさ、生きることの尊さを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育成します。</p> <p>(2) 「やさしい心」と「いのち」の大切さを伝える講演会等を実施し、人の痛みや様々な思いを知ること、命の大切さへの理解を深めます。また、他の分掌・担任と連携し、一人ひとりの規範意識の向上をはかります。</p> <p>(3) 自己肯定感を持ち、一人ひとりが大切な存在であることを認識し、自他の生命を尊重した言動ができるようになったかによって検証します。</p>	<p>(2) ゴミの分別についての意識がひくいようです。</p> <p>3</p> <p>(1) 使用講座産婦人科医による性教育講座、子育て講座、薬剤師による正しい医薬品の使用講座を実施することができました。</p> <p>(2) 講座終了直後にアンケートを行い生徒の意識の向上を確認できました。</p>	<p>(2) (3) 特別な時だけでなく常に美化意識を持つてる生徒を育てたいと思います。</p> <p>3</p> <p>(1) 講座で得た知識を自分の物とし日常生活に反映させます。</p>
--	---	--	---

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	1. 地域との連携が密であり、地域ぐるみの教育ができる。 2. 小規模校であるため、全職員が全生徒の様子を把握しており、きめ細かい指導ができる。 3. 職員同士のコミュニケーションがとりやすく、課題に即時対応できる。
弱み	1. 小規模校であるため、生徒同士が切磋琢磨する場面が少ない。 2. 学校行事やクラブ活動(特に団体競技)等の充実が難しく、生徒のニーズを満たしにくい。 3. 職員一人一人の役割分担が多い。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数>	2回

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2、3学期に1回ずつ実施 ・ 協議内容 (平成27年度「学校経営の改革方針」、平成27年度行動計画の目標・評価方法、中間評価、達成状況・評価結果、具体的取組に関する成果や課題、学校関係者評価から明らかになった改善課題、次年度に向けた取組) ・ 委員会とは別に、学校の現状を知っていただくために、授業公開・学校行事等に参加していただいた。
-------------	---

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校のPRについて、町広報、ケーブルテレビ、学校HPで適時的に提供しているが、それでもPRが足りないとの指摘から、コミュニティ通信を発行し、町内各戸回覧、小中学校児童・生徒への配付を行った。しかし回覧については、すべての町民に目を通してもらえない現実がわかった。 ・ 地方では看護師など医療関係の職種が不足しているため、看護師を養成する学校への進学が多いとよい。そのための進路指導も充実させていくべきである。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力定着・向上のために、現在取り組んでいることを継続し、さらに学習習慣を身につけさせる取り組みを進める。授業に集中できない生徒の原因を探り、実態に即した指導を行う。 ・ SBP 活動や防災教育など、地域と連携した取り組みを継続し、その広報活動のあり方を見直し、地域へ有効なアピールに取り組む。 ・ 地元就職したいという生徒の要望に応えるために、就職先開拓を進めるとともに、将来地元で就職でき貢献できるような進学指導を進める。